

まちの将来像

将来像は「コウノトリ悠然と舞う ふるさと」

2005年秋、日本の空から一度は姿を消したコウノトリが、再び豊岡の空に羽ばたきました。

このとき、私たちは歓声とともに大空を見上げました。この風景をこれからも守り育てるためには、豊かな環境の創造を文化として暮らしの中に融け込ませることが不可欠であると確信しました。

そこで、基本構想では、まちの将来像を「コウノトリ悠然と舞う ふるさと」とし、コウノトリをシンボルとして戦略的なまちづくりを展開し、次のようなまちを創造することになります。

●人々が四季の移り変わりのなかで、安心と懐かしさ、地域への深い愛着を感じる
ことのできるまち

●自然や歴史、伝統や文化を大切にし、おだやかさと安らぎに満ちた持続可能なまち

●人々が大きな夢と希望を抱きながら活躍し、元氣と賑わいあふれるまち

このようなまちを私たちが創り上げたとき、「コウノトリ悠然と舞う ふるさと」が実現するに違いありません。基本構想では、ふるさと豊岡が、地方の小さな都市（まち）であっても、世界の人々から尊敬され、尊重される「小さな世界都市」になるものと信じ、まちづくりを進めることとしています。

まちの将来像を実現するためのテーマは3つ

「コウノトリ悠然と舞う ふるさと」を実現するためには、私たち一人ひとりが共に力を合わせてまちづくりに取り組む必要があります。その実現に向けたテーマを3つ掲げています。

- 安全と安心を築く
- 地域経済を元気にする
- 人と文化を育てる

豊岡モデル

さまざまな分野の取組みを連携・拡大しながらまちづくりを展開

基本構想では、まちの将来像を実現するために、「豊岡モデルの展開」「参画と協働」の3つの戦略的まちづくりを提案しています。

まず、「豊岡モデル」とは、さまざまな分野のさまざまな取組みを有機的に連携させ、その連携を拡大させながら、協働してまちづくりを進めるという、まちづくりのプログラムのあり方をいいます。この「豊岡モデル」の展開には、市民や行政が同じ場に集い、情報を共有し、協働して取り組むことが大きな課題となります。

先進事例はコウノトリを核としたまちづくり

豊岡モデルの典型例として、コウノトリを核とした先進的な取組みがあります。

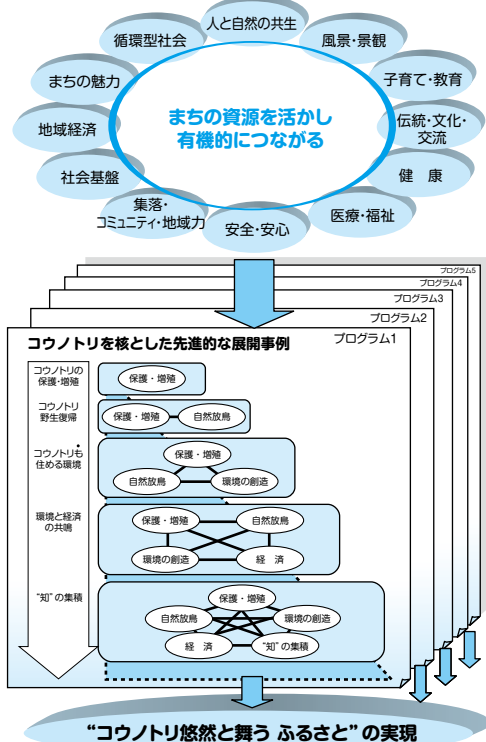
コウノトリ野生復帰の取組みは、単に「種」を保存し、野生に帰すことだけを目指すものではなく、それを支えることができる豊かな自然を創造すると同時に、そこに暮らす人間にとってすばらしい環境、コウノトリも住める豊かな環境を創造することを意味しています。

このため、私たちは、田園や河川の自然再生、田園景観や里山林の整備、ごみの減量化・再資源化、自然エネルギーの活用、環境教育など、さまざまな取組みを着実に進めてきました。

また、こうした取組みの中から、自然の摂理や人と自然との関わりについて、多くの「知」が得られるなど、さまざまな分野で有機的なつながりが展開されています。そして、このことが新たな取組みの体制づくりにもつながってきます。

～豊岡モデル～

まちの資源を活かし、多様な分野が連携する豊岡独自のプログラムの創造



参画と協働

ともに考え、ともに取り組み、ともに創る

戦略的まちづくりの2つ目の柱は「参画と協働」です。まちに暮らす人々、ボランティア、NPO、各種団体、企業、そして行政などお互い

特色ある地域

特色ある6地域の成長と連携を進める

戦略的まちづくりの最後の柱は、「特色ある地域の成長と連携」です。

私たちのまちを形づくる6つの地域は、それぞれが個性と可能性を持った素晴らしい地域です。

このまちをより輝かせるた

がそれぞれの立場を尊重して、果たすべき役割と責任を自覚しつつ主体的に取り組むとともに、相互に補完し、分かち合いながらより良いまちづくりを進めることが重要です。

このため、まちづくりの課題を共有し、関心を高めるための情報提供を相互に行うとともに、世代や性別に関わりなく、私たちが活動し、活躍できる環境や仕組みを創り、「参画と協働」のまちづくりを進めます。

めには、特色ある各地域をさらに成長させるとともに、それぞれの地域が励まし合い、競い合いながら調和することによって、まち全体が輝きを増すことが必要です。

そのために、地域に暮らす一人ひとりが、「地域を運営する」との認識のもと、自主的な活動を積極的に展開しなければなりません。また、多様な地域の特性を伸ばすための支援、地域づくりの核となる拠点や機能、組織体制の充実を図りながら、活発で元氣あふれる地域づくりを進めます。

公募委員に聞くまちづくりに対する思い

総合計画の策定には、学識経験者や各種団体の代表のほか、公募による6人の皆さんにも参加いただきました。この皆さんに策定作業で感じたこと、まちづくりに対する思いなどをお聞きました。

合併してよかったといえるまちに

六方田んぼ上空をコウノトリが悠々と舞っている姿を見たとき、委員としての責任と期待を喜びと共に感じました。私たちの手でまちをつくるという思いで参画し、各地域の実態も知ることができました。今後、市民のエネルギーが反映され、「みんなが合併してよかった」と感じられる温もりのある市政となるよう見守っていきます。



つやこ
河部 艶子さん
但東町木村

より活発な福祉関連活動を育てる

豊岡市に事業所を構えていることから公募委員に名乗りを上げました。軽い認知症の母も市内の民間グループホームに入居しています。いち早く福祉関連事業に取り組む人がいる豊岡。このような福祉活動は働く者にとって励みや勇気を与えてくれます。活動する人たちの芽を摘み取ることなく育てる。そんなまちであってほしいです。



中尾 康彦さん
養父市

輝け豊岡！

仕事以外は19年目に入る趣味のマラソン一筋でしたが、審議会への参画が導火線となり、絵本の読み聞かせや野菜を楽しく食べる会などを仲間の皆さんと一緒に地域で立ち上げました。豊岡市のまちづくりはもちろん次代を担う子どもたちを応援するために、「輝け豊岡」を合言葉にして地域づくりに頑張ります。



古島 奈央子さん
出石町口小野

住みやすいまちづくりを

豊岡市は山陰地方でも数少ない都市です。コウノトリでまちの知名度は抜群に上がり、これからは日本海に面した山陰地方で最高に住みやすいまちづくりを目指すべきです。そのためには、これから人口減少社会に入中、いかに人口減少を最小限に食い止め、人材の育成に努めるべきです。躊躇している時間はありません。



ゆきお
増田 征夫さん
竹野町切浜

まちの将来像に熱い視線を

「雪解けて村いっばいの子どもかな」一茶の名句の憧憬にまちづくりへの願いを重ね参加した審議会。英知あふれる真剣な眼差しの下に討議を重ね、基本構想策定への提言に接し、私のふるさとへの想いは憧憬から祈りへと変わりました。6つのまちに支えられた新生「豊岡市」。輝く笑顔が未来へ羽ばたくことをねがいつつ…。



ますこう
三好 益幸さん
日高町岩中

まちを改めて見つめることができた

審議会の開始当初、私はその雰囲気に大変緊張しました。委員の皆さんの豊岡市への熱い思いや意見に圧倒され、自分の思いをうまく言葉にできませんでした。会議を重ねるごとに私の知らないふるさとの現状を知り、まちを改めて見つめることができました。今後も、総合計画の目指す豊岡市のまちづくりに参加していきたいと思っています。



和田 真由美さん
土洲